

子どもたちといっしょに

「たのしいふゆごもり」

片山 令子 作 片山 健 絵 (福音館書店)



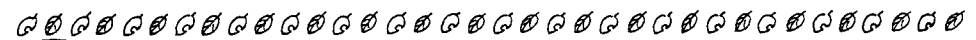
雪が降るくらい寒くなると、動物たちはふゆごもり(冬眠)するんだって子どもたちに教えてあげて下さい。

秋、葉っぱの色が赤や黄、オレンジに変わる頃、お母さんぐまとこぐまはふゆごもりの支度さしに出かけます。

始めは木の奥とり、それから、はちみつとりやさかなとり、わたつみ、きのことり。こぐまも一生懸命にお母さんの手伝いをします。ただ、食べられない木の奥だったり、他の生き物たちと遊んだり、すぐあきてしまうけれどね。

ふとんに入るとこぐまはぬいぐるみたちに「ずーっとおきていようね」って言うけれど、……ページをめくると、もうぐっすり寝ています。

今の季節にぴったりの絵本です。外は寒いだけれど、なんだか心の中はふんわり温かくなってきます。



第61回読書会 「ふたりのロッセ」 エーリヒ・ケストナー 作 高橋 健二 訳 (岩波書店)



日時 11月20日(日) 午後1:30~3:30 (しろね図書館友の会 場所 白根学習館 情報研修室)

お互い(ふ)はごの姉妹がいることを知らないで育ったルーゼとロッセ。9歳の夏、初めて二人は出会い、休暇が終わる頃、入れがわって父母のところへ帰る計画をします。それも綿密に。最後には別れた両親を仲なおらせることに成功します。ユ・モアに富んだ作品です。

11月の行事 ブックバス

2 (水) 絵本のじかん 3:00~	新飯田小 12:35~13:20 茨曾根小 13:30~14:30	16 (水) 絵本のじかん 3:00~	新飯田小 12:35~13:20 茨曾根小 13:30~14:30
4 (金) おはなし会 3:00~	白井中 12:55~13:35 白井小 14:00~15:30	17 (木) おはなし会 3:00~	白南中 12:55~13:35 左瀬地C 14:00~14:40 左瀬小 15:00~15:45
5 (土) 第7回おはなし講習会 (日) 1:30~	大通地C 14:30~15:00 根岸農小 15:30~16:00	18 (金) おはなし会 3:00~	白井中 12:55~13:35 白井小 14:00~15:30
9 (水) 第3回おはなし会 3:00~	大鷲小 12:30~12:55 根岸小 13:10~13:50	19 (土) おはなし会 3:00~	大通地C 14:30~15:00 根岸農小 15:30~16:00
10 (木) おはなし会 3:00~	白根北中 13:10~14:00 大通小 14:15~15:35	20 (日) 第61回読書会 (1:30~)	
11 (金) おはなし会 3:00~	白根小 13:00~13:50 小林小 14:30~15:30	23 (水) 絵本のじかん 3:00~	
12 (土) おはなし会 3:00~	新飯田農小 14:30~15:00 戸石公 15:30~16:00	24 (木) おはなし会 3:00~	白根北中 13:10~14:00 大通小 14:30~16:00
		25 (金) おはなし会 3:00~	白根小 13:00~13:50 小林小 14:30~15:30
		26 (土) おはなし会 3:00~	新飯田農小 14:30~15:00 戸石公 15:30~16:00



しろね図書館だより

No. 66

発行 新潟市立白根図書館
平成17年11月1日

Two Little Hands

私のちいさなふたつの手 神様がくれたものだから 良いことの為に使います
この手で誰かをぶつてもいいですが だめです この手は人をぶつ為にある手ではありません 良いことの為に使います 毎日毎日 良いことの為に使います

私のちいさな二本の足 神様がくれたものだから 良いことの為に使います
この足で人を蹴ってもいいですが だめです この足は人を蹴る為にある足ではありません 良いことの為に使います 毎日毎日 良いことの為に使います

私のこの声 神様がくれたものだから 良いことの為に使います
人をどなってもいいですが だめです この声は人をどなる為にある声ではありません 人を喜ばす為に使います 毎日毎日 人を喜ばす為に使います

この詩は、アフリカ、ケニアのマゴソスクールの子どもたちが歌うゴスペルです。10月16日に行われたトフ&ライブ、アフリカの嵐 大地の音(しろね図書館友の会主催)でお話して下さった早川千晶さんに教えてもらいました。当日は、333名の入場者があり、早川さんのお話のあと、大西彦哉さん、サカキマンゴーさん、近藤ヒロミさんらによる民族楽器のライブが行われ、最後には会場のほとんどの人が踊るほど盛りあがっていました。

10月の

来館者 18,538人 (視察見学 8人含)
貸出冊数 12,569冊
予約件数 175件
ブックバス利用者 448人
ブックバス貸出冊数 972冊

リクエスト情報(しばらくお待ち下さい)

- 1位・告白 (8名)
- 2位・ハリ・ポッターと不死鳥の騎士団 (4名)
- 3位・孤宿の人 電車男 (3名)
- 5位・風の盆幻想 東京タワー 他(2名)

第7回おはなし講習会 絵本・物語は子どももおとなも楽しい!

日時 11月6日(日) 講演 場所 白根学習館 ルーム1・2 参加費は無料です。
12月4日(日) 実習 人数 30人(先着順) 参加希望の方は、
12月11日(日) 実習 対象 3回続けて参加できる方 白根図書館まで。
いずれも午後1:30~3:30

025-372-5510

21世紀の最先端テクノロジー 空想科学への大冒険

透明人間の作り方から絶滅動物の再生まで

未来科学研究所編（青春出版社）
一般 404ク



私達が今住んでいる地球は46億年前に誕生しましたが、人類が現れ文明を持ちはじめたのは約1万年前で、これをカレンダーであらわすと、私達の祖先が誕生したのは大晦日の午後8時、さらに文明を持ち始めたのは午後の11時59分で、このわずかな時間に科学技術の進歩はすさまじい発展をみせています。

昔の人は月を眺め美しいと感じたことはあったとしても、人間が月まで行くことなど空想の世界で絶対不可能だと思っていましたが、これらは40年前にすでに実現されています。

又、身近なものとしてはテレビや携帯電話など以前は想像の世界であったものが、現在私達はこれらを自由に操っています。

この本は、透明人間の作り方や恐竜など絶滅した動物の再生、タイムトラベル、さらには永遠の命の実現など、現代の最先端技術を紹介しながら未来社会の姿をわかりやすく解説しています。

空想科学に挑戦する現代科学の最先端の世界に思いをめぐらしながら、気軽に読んでいただきたい一冊です。

（館長 坂井治一）

第六十回 読書会

平成十七年十月三十日（日）

午後一時半～三時半

参加者五名

三島由紀夫作 新潮社

『金閣寺』

一九五〇年七月、金閣寺が放火により全焼。犯人は同寺の徒弟林養賢（当時二十一歳）。足利義満が建立した舍利殿と、足利義満の木像、観音菩薩像、阿弥陀如来像や仏教本など貴重な国宝が焼失した。

金閣寺は一九五五年に再建され、その翌年この事件をモデルにした小説『金閣寺』が発売された。

主人公の「私」（小説では溝口）は吃りがあって、内向的な性格。幼いころから父に金閣の美しさを聞かされ、憧れていた。父の死後、縁あって金閣寺の徒弟となる。

時は戦争中、空襲で金閣が焼けるかもしれないという考え、その悲劇の中での美しさが、ますます「私」を金閣に溺れさせた。終戦後、金閣が焼ける心配がなくなると、金閣に対する「私」の感情は変化していった。美の象徴

であった金閣が俗物に、そして憎悪へと変化していき、ついには……。

★高校生の時に読んだ。金閣寺の老師が芸妓といったのを目撃し、その後をつけたところが印象に残った。世の中は汚いということを今なら分かるが、その時は反発や葛藤があつて共感できた。若い人の方が共感できるかも。

★高校生の時に読んでおもしろかった。作者の異常なまでの美へのあこがれや社会に対する行動の変化を感じた。

★金閣寺が燃えたというのは、聞いたことがあつたが、全焼までとは知らなかった。当時の新聞を調べてみたら、主人公の生い立ちや吃りがあつたこと、放火時に使用したものなど設定が同じだったので、作者がかなり詳しく取材して事件の枠はそのままに、内面は作者の世界で書いたのだと分かった。

三島文学の金字塔とも言われるこの作品、全文壇から高く評価され、単行本はベストセラーになったそうです。この他の作品もぜひ読んでみてください。

次回の読書会は

『ふたりのロケット』

ケストナー作（岩波書店）

十一月二十日（日）午後一時半～

☆本はカウンターで貸出しています。

お楽しみに♪
（中川 沙穂里）

行事報告

平成十七年十月二日（日）の午前十時から白根学習館ラスベックホールで今森光彦さんの講演会が開催されました。来場者235名。ボランティアスタッフを含めると255名の参加がありました。楽しいお話とスライドで滋賀の自然を知るとともに、身近な自然を考えるきっかけにもなりました。

講演会終了後、友の会による本の販売と今森さんのサイン会も盛況でした。

